

おうちミュージアム版
「カラムシ編みで流木スタレ作り」 by まいぶんKAN

- 【材料】 カラムシ3本、流木（長さ20センチくらい・細め）10本、貝がらなど
【道具】 編み台のかわりに竹竿と両側を支える椅子2脚、オモリ（洗濯バサミ）
ハサミ
【時間】 製作60分



※まいぶんKANのある朝日町は海岸で流木を拾うことができますが、難しい場合は何か木の枝でも、わりばしでも出来ます！身近にある材料を探してみてくださいね。

←こんなスタレを作りましょう。



←カラムシ

【手順】

- ①カラムシは根元から10センチほど残してハサミで刈り、葉を落としてから根元の

ほうから先端に向かって皮をむく。1本のカラムシから2本の繊維がとれるとよい。



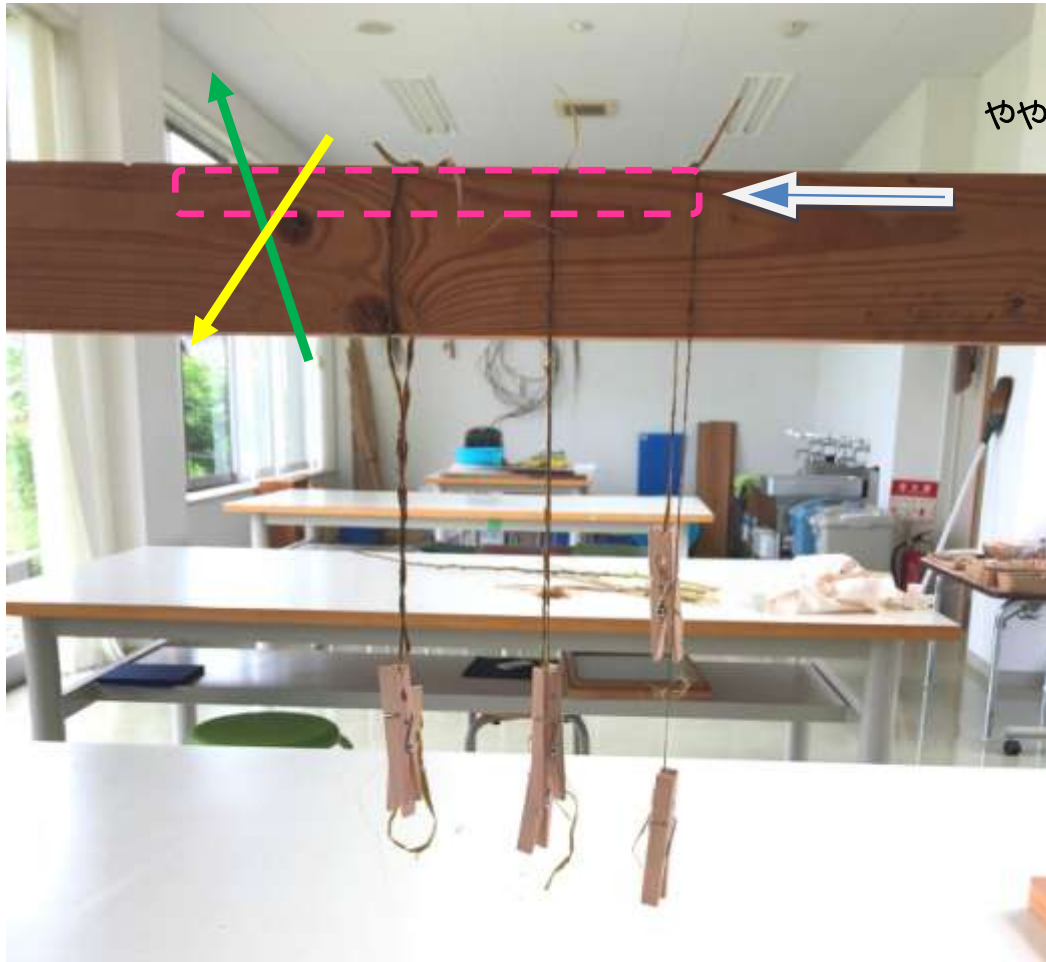
(根元側から皮をむいたところ)



(このように皮をむくと繊維がとれます)

②その繊維2本を結んで長くし、両端に重りとして洗濯バサミをつける。繊維が長いので、端を洗濯バサミにくるくる巻いてからはさむとよい。

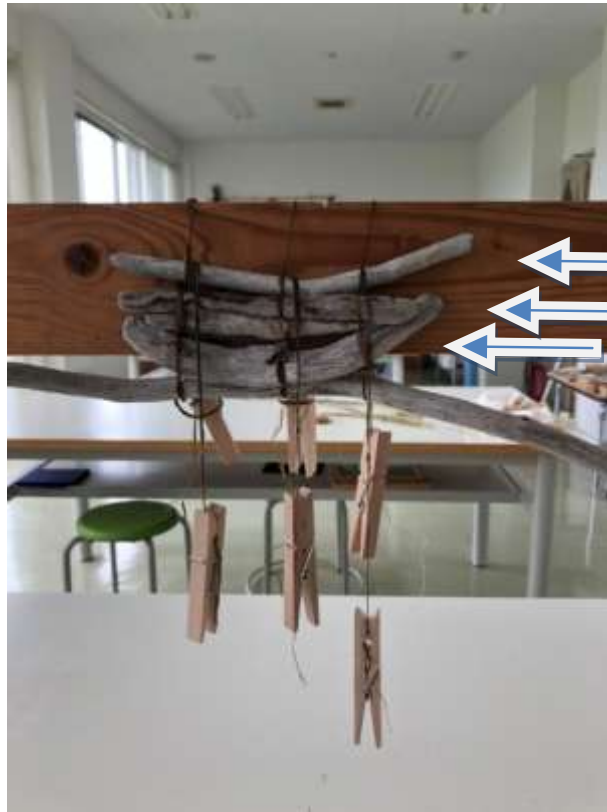
③両側に洗濯バサミをつけたカラムシの中央を編み台にかけ、前後に垂らす。
編み台はおうちにはないと思うので、適当な板や竹竿のようなものを物干し竿のように
するのでもよい。



④流木を編み台の手前に添えて、手前の洗濯バサミを前から後ろにもっていく。(緑色の動きのように右前から左後ろにおろす)。後ろの洗濯バサミを手前に持ってくる(黄色の動きのように右後ろから左手前にもってくる)。

3本のカラムシをおなじようからめる。

⑤3本のカラムシを同じように木にからめる。かけ終わったら、次の流木を上添えて2段目もくりかえす。



3段目

2段目

1段目

⑥ 10本の流木が全部結ばれたら、最後に余ったカラムシを結んで流木をとめる。
貝がらなどがあれば先に結んで垂らしてできあがり！



結んだカラムシの下に拾った貝殻や流木を結んだら、すてきな飾りになります。

【カラムシについて】



カラムシは縄文時代から日本人が利用している植物で、糸をとってヒモにして、編むことで布や袋やスダレなどを作ることができます。今回の使ったカラムシは、まいぶんKANのお庭「縄文ガーデン」から摘み取りました。



オビキといって、専用の金具で繊維ではない部分をのぞく。両面とりのぞくと繊維だけになる。金具は古道具屋さんなどにある場合もありますが、なければ貝殻や竹筒を割ったものでも。



両面取り去ると透き通った綺麗な繊維になります。
スダレの場合は皮ごとつかっても大丈夫です。